

S-T-E-A-M教育推進事業

背景・課題

- 科学技術の急速な発展により、文理の枠にとらわれず、様々な情報を活用・統合し、課題の発見・解決や社会的価値の創造に結び付ける資質・能力の育成が求められている。
- 北海道・札幌市・北海道大学・株式会社ニトリホールディングスの四者連携協定に基づき、デジタル技術等の活用により地域社会の課題を解決し、みらいの社会を創造できる「みらいIT人財」を育成する必要がある。
- 令和4年度から探究的な学びを通じて資質・能力を育成することを重視する高等学校学習指導要領が年次進行でスタート。

「TEAM北海道」で「Society5.0時代」の到来に向け、「School(学校)」全体で、「Student(生徒)」の資質・能力を育成し「Sustainable(持続可能)」な社会を構築

「社会との共創」推進プロジェクト

◆希望する高校生及び高等部生徒を対象に、実社会の課題解決につながる探究活動を実施し、成果を発信する。

【アントレプレナー教育型】

○大学や企業と連携し、企業が抱える課題の解決に向けた探究活動に取り組む。

【地域課題解決型】

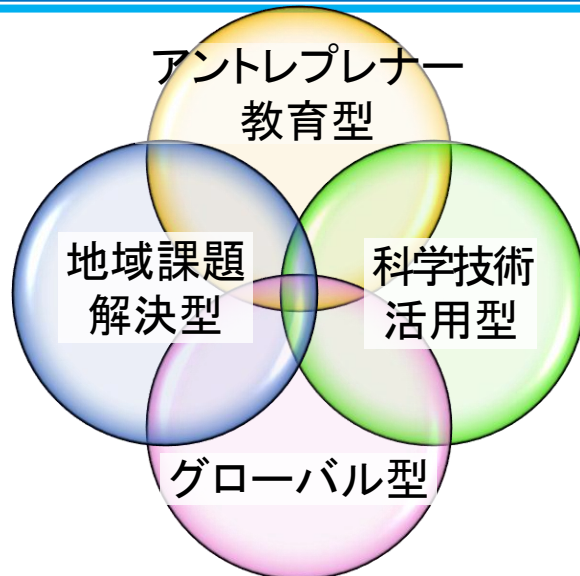
○自治体等と連携し、地域が抱える課題の解決に向けた探究活動に取り組む。

【科学技術活用型】

○科学技術を活用してゼロカーボンの実現など、実社会における課題の解決につなげる課題研究を募集。

【グローバル型】

○SDGsなど地球規模の課題の解決に向けた探究活動に取り組み成果を英語で発信する。



「STEAM」推進プロジェクト

◆多様な個性を有する生徒の育成を支える基盤となるプロジェクト。

探究学習推進事業

○各教科等で身に付けた見方・考え方を活用して、生徒が主体的に探究に取り組むことができるよう、大学等と連携した授業研究を通じて、各教科の授業改善を推進。
○新設された「理数探究基礎」及び「理数探究」の理解を深め、科目の開設を促進するため、理科・数学の教員を対象にセミナーを開催。

連携：東京学芸大学

外部連携支援事業

【学校活用型】

○各学校における探究的な学びを充実させるため、外部講師を招へいする費用を支援する。

【四者連携活用型】

○高校生の探究活動の質の向上を図るため、IT・データサイエンスに関する講師の派遣を行う。

企画評価検討会議

○大学教授等の外部有識者による企画評価検討会議を開催し、事業の進捗管理や評価を行い、事業を改善。

「探究チャレンジ」プロジェクト

各学校における成果報告会

管内発表会「探究チャレンジ〇〇」

1年目「探究チャレンジ・北海道」

2年目「探究チャレンジ・ジャパン」

3年目「探究チャレンジ・アジア」

- ◆各地域において高校生の探究活動の成果の発表・交流をオンラインで実施。
- ◆各地域の代表生徒等による全道規模の成果発表会をポスターセッション形式で開催。
- ◆四者連携協定の下、高等学校及び特別支援学校高等部生徒が成果を交流。
- ◆各学校の「総合的な探究の時間」の改善・充実を図るため、道立教育研究所と連携した教員研修を実施。

生徒の多様な可能性を育み将来の北海道を支える人材の育成